

「日々の理科」(第 3110 号) 2023, -2, 10

## 「北軽井沢の記録的少雪 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私の山荘がある北軽井沢は、「軽井沢」の名を含む地名がだ、長野県ではなく群馬県の西部にある。水系は利根川水系、気候区も太平洋側の気候区に属する。上越国境(群馬・新潟の県境)や上信国境(群馬・長野の県境)---つまり「大分水嶺」からも比較的遠い。従って、強い冬型の気圧配置になっても、大雪になることはない。



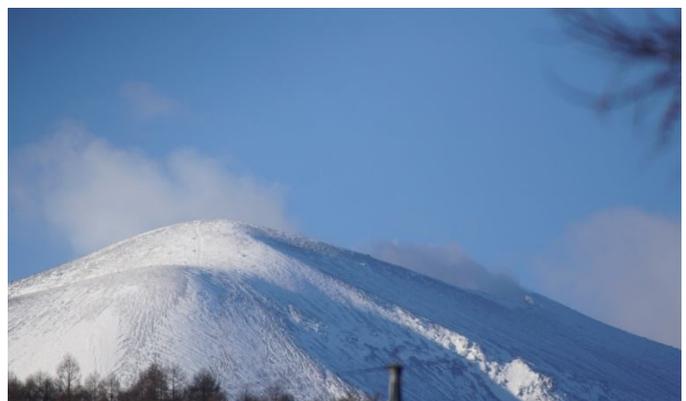
この地区でまとまった雪が降るのは、優勢な南岸低気圧が通過した時に、北から寒気が入り込んだ場合だけである。写真は2014年12月の表庭の様子で、まさに上記の気象条件が重なっていた。



2014年2月には、約70cmの積雪があった。私が見る限り、当地最大の積雪深である。さすがに山荘に行くことは不可能になり、テラスも庭も駐車場も完全に雪に埋まってしまった。この年は、4月の中旬まで雪が残っていた。



ところが、今シーズン(2022年~2023年の冬)は記録的に雪が少ない。写真は2022年12月25日のクリスマスの朝の様子だ。5cm程度の積雪しかないが、これでも一番積もった日だった。



2022年12月には、浅間山の山頂付近も雪に覆われていた。こうなると例年、3月下旬まで雪をかぶったままになることが多い。



1月から2月にかけても、雪はほとんど降らなかった。地表の雪も融けてしまい、地面が見えてしまっている。毎年見られたいわゆる「根雪」が消えてしまったのだ。こんなことは20年間で初めてである。